
青空ボール

べあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青空ボール

【Nコード】

N7345I

【作者名】

べあ

【あらすじ】

中学生のソフトテニス界で最強のプレイヤーだと言われていた日向歩

中学最後の大会で弱小校とまで言われていた陵谷中に負けてしまった。

そして歩はある事を決断した。

「お父さん、お母さん。」

アタシは明日から男になります！」

最後の夏

「ゲームセット!!!」

4 - 3 よって勝者劉谷・谷崎ペア!!!」

審判のコールが、やけに遠く聞えた、あの夏。

涙でかすむ目で空を見上げれば

どこまでも続く青い空

隣では声を上げて泣くペア

歓声と拍手の中

ようやくこの時実感した。

ああ、負けたんだ

さようなら、中学最後の夏。

新しい春

春は別れと出会いの季節

美しく咲く桜と、少し暖かい春の空気が心地よい

真新しい制服を着て、少し緊張気味の新入生。

今日は、秀誓坂男子高校の入学式

そして、その新入生の目を釘付けにする1人の少年

男にしては小さい身長に、細いながらも程よい筋肉

サラサラで少し色素の抜けた髪、多きく澄んだ目、白い肌

少年の背負っているラケットバックは背負っているとつうよりも背負

われている

それを見た、全員の男がこう思っただろう

「女みたいな可愛い男」

外見だけで言えば、少年はこの男子校の花のような存在だ。

だが、少年には1つの大きな問題があった。

生徒会室

ドンッ！

航が分厚い書類を叩きつける音が、広すぎる理事長室に響く。

「どついう事だよ親父！！！」

俺たちはそんな奴がココに入学するなんて何も聞いてねえぞ！！？
??

きつちり説明してもらおうじゃねえか！！」

彼の名前は茂山航
シゲヤマワタル

この学校の生徒会長で、理事長の実の息子だ。

「まあ、まあ落ち着きなよ航。」

そんな航の様子を見かねて、

副会長の泉水 イズミ 優希 ユウキ が間に入る

「うっせー！！」

こんな状況でだまってられつかよ！！！！」

「だってしょうがないじゃん、古い親友に頼まれちゃったんだもん
！！」

このナヨナヨとした話し方の中年男性が
シゲヤマシュウジ
茂山秀治航の父でもありこの学校の理事長だ。

「何だよその意味わかんねえ理由！！」

第一、そんな奴が来たら、学校の風気が悪くなんだろうが！！

俺はぜってえそんな奴認めねえからなっ！！」

航のイライラが頂点に達し、航は近くにあったL字型のソファーに八つ当たりをした

「僕は良いと思うけどな

何か楽しそうだし！ホラ、乙ゲーでよくあるシチュエーションじゃん！」

そう言っていると優希は理事長に小さくウインクする

「優クンもそう思うっ！？

このコが来たら絶対この学園楽しくなりそうだよね！」

理事長の顔がいつきに明るくなる

「優希、それはあくまでゲームの中の話だろ！！！？
それに、あんま親父を調子に乗せんよ、後々面倒な事になんだから」

航は大きくため息を漏らし
さっき八つ当たりしたソファーに倒れこむように座る

「航くんひどーいっ

昔はパパ早く帰ってきてねってよく僕にせがんだのにつ
僕はこの子をこね学校に入りたいのっ！！パパの頼みもたまには聞

いてよっ
」

「ぷッ

航がそんな事いったのっ？

今の航には考えられないやっ

航も、たまには親孝行してあげたら？」

優希がお腹を抱えながらクスクス笑う

「親父！！

余計な事言ってんじゃねえよっ！！

優希も次笑ったらただじゃおかねえからなっ？！

親孝行もクソもいつも俺がいつつも親父に迷惑かけられてんだけど
！！」

怒り狂って航は顔を真っ赤にさせ、2人に怒鳴りつける。

最強な奴

「こらこら、お父さんを敬えって小学校の時習っただろ？
そ・れ・に・っ航の機嫌を良くする話もあるんだよっ」

理事長は航の方にウイングして
1枚の紙をファイルから取った。

「俺の機嫌を良く話？何だよ？」

航のまだ不機嫌は治っておらず
拗ねた子供のようにそっけない態度をとる

理事長のちょうど後ろにいた優希は、不思議そうに紙を見る
そして優希はその紙を見て、大きい目を更に大きくする

「確か、この子って……。」

優希の驚きぶりから相当凄い物が書かれているのだろう、航も少し
気になり

「何だよ、俺にも見せろ」

と不機嫌そうに言って、理事長の手からスッと紙を取る

そこには随分と可愛いらしい少年の写真が貼っており、長々とプロフィールが書き込まれている

「何だよ、ただの履歴書じゃねえか。

こいつがどうにかしたのか？」

優希が口をパクパクさせ、霊でも見たような顔をしている

「・・・航、もしかして日向歩を知らないの・・・？」

日向歩・・・？

名前まで女みてえなんだなと航が言おうとした瞬間

「しょうがないよ航テレビとか興味ないから見ないし

見たとしても、男子の試合しか見ない子だから」

理事長は苦笑いを浮かべながら優希に言う

そして優希は少し呆れたような顔をして航から履歴書を奪う

「この子はね、日本中学生ソフトテニス大会の優勝記録を塗りかえた子だよ。

中3の時の準優勝以来公式試合は出て来なかったんだけどね

航も中学の時全国優勝候補者だったのに名前すら知らないなんて無頓着にも程があるよ」

優希の大げさな呆れた声が室内に響く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7345i/>

青空ボール

2011年1月15日23時49分発行